

【本件リリース先】

文部科学記者会、科学記者会、
広島大学関係報道機関



広島大学

NEWS RELEASE

広島大学広報室
〒739-8511 東広島市鏡山 1-3-2
TEL : 082-424-4383 FAX : 082-424-6040
E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

令和 7 年 8 月 18 日

本学の研究者が 2025 年度 AMED スマートバイオ創薬等研究支援事業に採択されました

情報提供

広島大学大学院医系科学研究科小児科学の岡田賢教授が中心となって進めている研究が、2025 年度 AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）スマートバイオ創薬等研究支援事業に採択されました。詳細は以下のとおりです。

2025 年度採択者

岡田 賢 教授（広島大学大学院医系科学研究科 小児科学）

研究課題名：新規高機能スプライシング制御オリゴヌクレオチドをもちいた糖原病 la 型本邦好発変異に対する新規治療法開発

（研究領域：疾患応用の研究開発_要素技術とシーズの組み合わせ）

AMED スマートバイオ創薬等研究支援事業は、バイオ医薬品等（抗体、ペプチド、核酸、遺伝子治療、細胞治療など、化学合成された医薬品ではなく、生物由来の成分を利用して製造される医薬品）の高機能化に資する基盤技術や、創薬周辺基盤技術（ドラッグ・デリバリー・システム、効果・安全性評価、イメージングなど、医薬品そのものの製造以外の観点から、創薬のスピードや制度、成功率を大きく左右する技術群）等の要素技術を組み合わせることで、優れた創薬シーズの研究および事業化を推進する事業です。

本事業は、一連の取り組みを通じて、日本発の革新的で高機能なバイオ医薬品等の創出を目指しています。

岡田賢教授が研究開発代表者を務める本研究では、希少難治性疾患である糖原病 la 型の症状改善を目的として、広島大学、神戸大学、国立成育医療研究センターと共同で核酸医薬の開発に取り組みます。

糖原病 la 型は、生まれつきグルコース-6-ホスファターゼという酵素の遺伝子に変異があることにより、体内に蓄えられたグリコーゲンから血糖として利用可能なグルコースをうまく産生できない疾患です。本症は 10 万人に 1 人程度の発症頻度とされる希少疾患であり、患者は乳児期から難治性の低血糖を呈するほか、低身長、肝腫大、肝腫瘍など多彩な症状を伴います。現在のところ根治療法はなく、頻回の補食による低血糖への対処など、対症療法が中心となります。本研究で開発される核酸医薬は、東アジアで高頻度に認められる遺伝子変異（c.648G>T）を有する患者に対して高い有効性が期待されており、日本人患者の 90%以上に適応可能な画期的な治療薬となる可能性があります。

本研究の一部は、日本学術振興会 J-PEAKS※の支援を受けており、広島大学では今後も本支援により創薬研究を推進していきます。

※J-PEAKS（地域中核・特色ある研究大学強化促進事業）：

地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、その強みや特色のある研究力を核とした戦略的経営の下、他大学と連携等を図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速等により研究力強化を図る環境整備を支援することにより、我が国全体の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成を推進することを目的としています。

【参考】 https://www.amed.go.jp/koubo/11/O1/1101C_00058.html

【お問い合わせ先】

広島大学 大学院医系科学研究科 小児科学 教授 岡田 賢 Tel：082-257-5212 FAX：082-257-5214 E-mail： sokada@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 2枚（本票含む）